

平成28年度 学校関係者評価報告書

大阪市立鯉江東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 本年度の学校の自己評価結果は妥当である。
- 目標達成に向けて、いろいろな取り組みをしているのがよくわかった。継続した取り組みで成果が表れている。
- ICT教育や英語教育など新しい取り組みが進められているのがわかった。
- 学校と地域が良好な関係にあり、小学生は落ち着いている。未就学児童の保護者は、安心して入学させられる学校と思っている。子どもの小学校入学を楽しみにしている保護者もおられる。
- 学力面で向上していても、意識面での実感に結びつけるのは工夫が必要である。
- 規範意識が身についてきている。日ごろの関わり方を見ている、細かいところまで見てもらっているのがわかる。
- 学力や心の育ちについて、保護者アンケートの「できている」という回答の数値が昨年度より減っているので、丁寧に見直しをしていく。
- 運動については、課題のある種目については、単年度の結果だけでなくを継続して見ていくようにする。

2 年度目標ごとの評価

- 年度目標：学力の向上
- ① 本年度の大阪市小学校学力経年調査において、2極化傾向の改善を図る。
(カリキュラム改革関連)
 - ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を50%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
 - ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「わかる」と回答する児童を昨年度より増加させる。
(カリキュラム改革関連)
 - ④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。
(マネジメント改革関連)
 - ⑤ 大阪市小学校学力経年調査で、「読むこと」「書くこと」領域の平均正答率で全学年大阪市平均を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 達成状況の評価に関しては妥当である。
 - ICT機器の活用や低学年からの英語教育など新しい取り組みを進めているのがよくわかった。新しいカリキュラムに変わっていく中で、新しい取り組みもどんどん入ってくる。子どもたちはきちんとついていけているのかが、少し気になる。個人差に気をつけ、どの子もできるように見てほしい。
 - 保護者アンケートで、「子どもに学力を定着させるような授業が行われている」について「できている」という回答が昨年度より減ったので、丁寧に見直しを行う。(学校より)
 - 大阪市小学校学力経年調査を本年度から実施している。結果の分析がまだできていないので、きちんと生かすようにする。(学校より)

年度目標：道徳心・社会性の育成

① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より増加させる。

- ・ 自分にはよいところがある。
- ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきている。
- ・ きまりや約束事を守っている。
- ・ あいさつをしている。

(カリキュラム改革関連)

② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を前年度より増加させる。

(マネジメント改革関連)

③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

○ 子ども同士の関わり方はいろいろな状況が考えられる。子どもの気持ちを把握するため、個別の聞き取りや対応を大切にする。

○ 授業を聞く態度など学習のきまりは、本当に育っているのか、中学校での様子も含めて長い目で見ていくようにする。

○ 体験活動は今年もたくさん実施されている。

○ 地域と連携した防災訓練は、繰り返し実施することで成果があがっている。

○ 保護者アンケートで、「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」について、「できている」と答えている保護者の割合が昨年度より減っているので、丁寧に見直しを行う。(学校より)

○ 自分のよいところなどの項目で肯定的な回答が増えてきた。これまでの取り組みの成果が表れてきたように思う。この気持ちを大切にしていきたい。(学校より)

年度目標：健康・体力の保持増進

① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を前年度と同程度以上にする。

(カリキュラム改革関連)

② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を70%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈の記録で前年度より上回る。

(カリキュラム改革関連)

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

○ 健康に関する項目については、継続した取り組みの成果があがっている。継続していくことが大切である。

○ 運動することの意識調査では、目標に少し達していないので、取り組みを工夫しながら続けていく。

○ 体力テストの結果、課題であった柔軟性は改善されてきた。しかし、かつて課題であったソフトボール投げの結果が良くなかった。継続して取り組みをする。

3 今後の学校運営についての意見

- 自己評価の結果は概ね良好で、達成状況も妥当である。さらに細やかな気配りができるように、学校・家庭・地域が力を合わせて取り組みや啓発を進めていく。
- 新しい取り組みを進めていく中で、みんなができるように、細かい気配りをしていくことが大切である。
- 子ども同士の関わり方はいろいろな状況が考えられる。一元的に見るのではなく、個別の聞き取りや対応を大切にしてほしい。
- 新しい学習指導要領によるカリキュラムの変更があるが、何を残し、何を変えていくのかをしっかりと見極めて進めていくようにする。(学校より)
- 児童の問題行動については、これからも関係機関等の指導・助言を得ながら、児童一人一人にあった対応をしていく。
- 学校選択制により、来年度も校区外から1年生が15人入学してくる。保護者と連絡を密にとり、児童の安全意識の向上にも努める。さらなる見守りをお願いしたい。(学校より)
- 学校の取り組み状況を短時間で把握し、話し合えるように、プレゼンテーションソフトで作成したスライド資料を作成し、電子黒板を使って説明した。写真などで行事や児童の様子、整備状況などを見ていただくことができた。さらに工夫したい。(学校より)